

①概要

所定高さより重錘を落とし、直下に設置された試験体に衝突させて衝撃特性の評価をする試験装置です。荷重センサや非接触変位計を用い時刻歴波形収録を行い、衝撃吸収能評価を行います。また、オプション仕様で高速ビデオ撮影を行い圧壊変形挙動と時刻歴データとの相関観察が可能です。

②主な仕様

- (1) 落錘重量：10～490kg
- (2) 落下高さ：～16.5m
- (3) 試験速度：～64km/h
- (4) 最大荷重：3000kN
- (5) 最大ストローク：500mm
- (6) 最大試験エリア：1000×2000mm範囲内

③特徴

- (1) 自由落下方式による鉛直方向の衝撃試験
- (2) ガイドレール間隔 400、600、800mmの3種類から選択可能
- (3) ガイドレールがベースより1m手前から取り外しが可能であり、曲げ試験などにおいて正面からの衝突挙動が観察可能
- (4) ボンネット、ドア部材など大空間を要する試験体にも適応可能
- (5) 試験体の過圧壊を防止するため塑性ストoppaによる重錘停止機能を有する。(重錘停止距離50mm程度必要)

④利用分野

- (1) 自動車などの衝突安全性評価試験
- (2) 金属や樹脂材料などの衝撃吸収能評価試験
- (3) 電装品など車載品の衝撃特性評価試験

■装置外観

